

「非接触給電システム」 新聞掲載の紹介

2022年（令和4年）2月17日・木曜日

06

日刊
THE NIKKAN
工業
KOGYO SHIMBUN
新聞
2月17日 木
2022年/第49号

自動車

AGV無線給電量産

ジーエスエレテック 年100ユニット出荷

23年度めど

【名古屋】ジーエスエレテック（愛知県豊田市、鈴木城司社長）は6月にも、走行中の無人搬送車（AGV）に充電できる無線給電システムの量産を始める。2023年度にかけて生産能力を上げ、年100ユニットの出荷を目指す。主力の自動車用ワイヤハーネス（組み電線）は、電動化に伴う無線化や軽量化で需要減が予測されるため、次世代の事業を育てる。

ジーエスエレテックに給電ヘッドを設け、給電ヘッドが量産するAGV用無線給電システムは高さ4・5mほどの給電ヘッドと受電装置、電みだ。源で構成する。走行ル

源で構成する。走行ル

源で構成する。走行ル

源で構成する。走行ル

源で構成する。走行ル

一般的AGVやロボットのワイヤレス給電システムは、電池残量が減るとステーションに戻って自動で充電する。ただ充電中は走行できず、工場の稼働

一般的AGVやロボットのワイヤレス給電システムは、電池残量が減るとステーションに戻って自動で充電する。ただ充電中は走行できず、工場の稼働

一般的AGVやロボットのワイヤレス給電システムは、電池残量が減るとステーションに戻って自動で充電する。ただ充電中は走行できず、工場の稼働



受電装置を取り付けたAGVが給電ヘッド（枠内）の上を走行すると、自動で充電できる

トを50〜70%削減し、移動システムにも応用した。今後は出力を1.5倍にする考え。1.2mに引き上げる。同社は無線給電システムを目指すほか、22年を含まぬ新規事業の年未には一つの電源で売上高で30年度に10億最大4個の給電ヘッド円を目指す。自動車に対応できるように改良。外の新領域を開拓し続ける。介護ロボットの営業リスクを分散する。



更に使いやすさを追求！
これが地産社ジーエスエレテックは、
皆様へ貢献できるよう努力を続けます。